

# RPJ News

2016年5月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒115-0045 東京都北区赤羽2-45-8 ファーストビル赤羽205

TEL/FAX 03-5939-9603

毎月1回発行

E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

## 内 容

### \* 日本多機能型精神科診療所研究会の報告

大分県中津市 寺町クリニック 太田 喜久子

### \* イタリア・アレッツォ県ヴァルディキアーナ地域研修に関する報告(3)

事務局

### \* 事務局からのお知らせ

- (1) リフレッシュセミナー2016 「リフレッシュ交流会 in 御荘」参加者募集のお知らせ
- (2) カナダ・トロント ACT セミナーツアー2016 参加者募集のお知らせ

### \* 日本多機能型精神科診療所研究会の報告

大分県中津市 寺町クリニック 太田 喜久子

H27年5月17日東京医科歯科大学の講義室で、第1回日本多機能型精神科診療所研究会が開催され、私はお世話人の一人として参加していた。協会の仁木理事長と仁木事務局長、エスポアール出雲の高尾さん、茨城県の町でくらす会の志井田さんの顔が見えた。この顔ぶれが揃う背景には、協会のイタリアの地域精神医療の研修があり、当時国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所所長福田祐典氏とのかかわりがあった。

H26年7月中津でダルコ先生の講演会を主催、この時に福田氏が参加され私たちの地域精神医療活動を見学、私を会の発足にあたり世話人として紹介された。垂直型精神科診療所を提唱したのは福田氏で入院外サービスとして外来・デイケア・訪問診療・訪問看護・計画相談・就労支援・居住支援など多機能型の地域精神保健サービスを、同一医療法人もしくは、共通の支援哲学と支援手法を有し医療・福祉を含む適切なケアマネジメントを行うことが可能な垂直統合型のサービスを提供する精神科医療機関が、それぞれの地域で模擬的なキャッチメントエリアを持って24時間マイクロ救急を含むサービス提供をすることが、地域精神保健の展開にとって必須と考え、このような機能を提供できる精神科医療機関を多機能垂直統合型精神科医療機関と位置づけた。それぞれの地域で展開されることで、重症かつ慢性の患者以外は急性期治療の短期間入院のみで、入院することなしに適切な治療が受けられ社会の活動が開かれてくると述べており、この活動の担い手と考える精神科診療所へメッセージを送り続けられている。

多機能型診療所は窪田彰氏がご自身の診療所活動が必要に迫られ諸機能を追加し、気が付いたら多機能になっており多機能型精神科診療所と呼称したのが始まりである。窪田氏は地域の中にいろいろな資源を置くことで自分たちの町になると言われ、重症の精神障がい者を地域で支援していくときに、同一法人で垂直型で見ていくことで、入院を避け地域の生活が維持できる。地域の生活が定着すれば、水平型での支援が可能になりより良い市民生活が可能になると述べている。既に氏は地域で垂直型の支援を開始されている。協会のイタリア研修に2人とも参加され、具体的にこの考え方をイタリアの活動と照らし合わせて検証されている。イタリアのトリエステやペローナのような地域精神保健医療センターを構想し、人口10~20万人にこのセンターを置き、運営は公的補助金で運営する。日本の福祉活動には既に地域活動センターがあるが、この補助金と同程度の補助金で運営することで地域ケアに責任と役割が生まれ、診療報酬を超えた多様な地域活動が可能になると提言され、第1回日本多機能型精神科診療所研究会は、日本の精神科地域ケアの歴史に新しいページを刻むことになる、と書かれている。

第1回の内容は、多機能精神科診療所が精神保健政策に立場と実臨床活動から可能性を論じている。そし

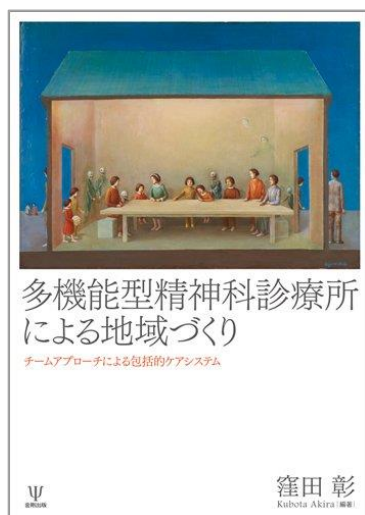
て全国 20 か所での活動報告がされ、こんなにも多彩な精神科診療所活動があるのかと驚いた。この 1 年間、私は自分の 20 年間に広がった活動を振り返り、重装備である地域活動が精神科病院のようになってはいけないことを、固く誓い歩んできたかを考えてみたが、私たちの活動が精神科病院とは異なる地域の精神科医療であると自分に納得できるような答えはまだ見つかっていない。しかし方向性は正しかったと思うことができた。

研究会 2 回目までに会員の活動を見学する企画があり、群馬県の桐の木クリニックの見学に参加した。発達障害の方々の働く工夫がされており、その活動は予想を超えて広く地域に広がり、まるで日本のイタリアであるように感じた。それはこの活動の実践者が「自由こそ治療だ」の記者半田文穂氏ということから大いに納得できた。

第 2 回目は H28 年 5 月 15 日、同じく東京医科歯科大学で第 1 回目より広い講堂で開催された。参加者は 1 回目を上回り 200 名を超える人数であった。精神保健医療福祉政策の動向、多機能型精神科診療所が医療政策に期待することを各現場から提言し、全国 10 か所の実践活動が紹介された。発表者の多くが自分たちの活動が多機能かはわからないが、と前置きして発表されたのが印象的であった。たぶんはまだ多機能という言葉が共有し、その理念がお互いに重なり合うために時間が必要と思えた。シンポジウムでは、障害福祉サービスと多機能型精神科診療所から総合支援法の見直しを機会に、というタイトルで医療からだけではなく福祉と家族の立場からの発表があった。家族会の代表として全国精神保健福祉会連合会「みんなねっと」理事長が話されたなかで、精神科入院医療中心から地域医療への大きな流れを否定する人はいないが、現実には遅々として進んでいないという冒頭の言葉が胸を突く。医療と福祉の連携がうまくいっていないことを挙げられていました。家族の孤立は今もあり、家族支援を多機能精神科診療所に期待するというメッセージが送られた。第 2 回目の会では日本の包括的精神科地域ケアを担える力を持った診療所があることを示し、厚労省に「地域精神保健センター」に相当する制度の新設を求めて、未来に夢を持てる精神科地域実践を生み出していくことが方向づけされた。

第 2 回目の施設見学は静岡のメンタルクリニック・ダダを予定している。ここは精神科診療所と障害福祉サービスが共に地域を創るという広がりを生み出して来たところで、乳幼児期からの切れ目のない支援が地域で展開されている。ここまでくると従来の重症の精神障がい者支援から更に広がり、新しい時代の支援図を描き出し、未来につながる包括的精神科地域ケア時代の到来を感じるのである。これはダルコ先生の言う精神医療保健予防活動につながるのであろうと思った。今の私は、自分の歩みのしるべは精神保健福祉交流促進協会前理事長谷中輝雄先生の示されてきた活動路線の上に乗って走っている、と思えるのである。既に亡くなられた先生が残されたメッセージは大きく、これからもこの大きさにどの程度ついていけるのかは健康との兼ね合いでもあるが、今後も先生の姿に間いかけながら歩んでいきたいと思う。第 3 回目の会は仙台で予定されている。

最後になりましたが、この度の熊本地震では多くの会員様の温かいお見舞いの言葉をいただきありがとうございました。大分は湯布院、別府などで被害がありましたが、中津では生活に支障があるほどの被害は受けませんでした。しかし、この自然災害が及ぼす影響は観光に大きな打撃を与えています。観光と生活が密着している九州の地では、被害の風評を打ち消して観光の復興が期待されると同時に、熊本の南阿蘇の被害は甚大で当分年月のかかる復興に取り組まねばなりません。この紙面を借りて現況報告とお礼を申し上げます。



#### <参考書籍案内>

文中の窪田彰氏の著書を紹介します。

「多機能型精神科診療所による地域づくり」

単行本 230 ページ

定価 2,700 円＋税

発売日 2016 年 4 月 20 日

出版社 金剛出版

## \* イタリア・アレツォ県ヴァルディキアーナ地域研修に関する報告(3)

事務局

3 番目の精神保健センターはフォイアーノ保健の家の中にあります。この保健の家は修道院だったところを改装して使用しています。1 階には精神保健センター機能のほかに救急病院機能と家庭医事務所、受付などがあり、2 階は地域の病院になっていて各科の専門医がいます。その他に住民用に 18 床のベッドがあり最長 2 週間宿泊できます。(入院までは必要ないが家には居たくないというような場合にも利用できる)



フォイアーノ保健の家

建物にはダイケアのような芸術活動をするラボラトリー（工房）が入っており、絵画や飾り物の作成をしていました。しかしラボラトリーやアソシエーションは作業をしても収入を得ることは出来ないので、社会協同組合にして就労者が収入を得られるようにするプロジェクトを精神保健センターとして進めているとのことです。就労に結び付ける第一ステップとしてこの様なラボラトリーで活動を定着させ、次のステップで収入を得て社会の一員になってもらうことを目指しているそうです。社会協同組合やアソシエーションには国・市・EU 共同体等からの補助金を受けられます。ここを含む活動に EU から 2 年間で 6,000€、銀行から 1 年で 8,000€（イタリアの銀行は利益が出た場合、寄付をすることが法律で決められている）、トスカーナ州の事業体から 6,000€の寄付を受けているとのことです。そして、ここの維持には年間 3,600€、材料費経費で 8,000€が必要とのことです。何もしなければ寄付を受けることはできないので、各方面に積極的に活動をアピールして補助金を受ける努力をしているとのことでした。



修道院時代の中庭もそのまま



工房での活動

以上 3 回にわたって、2012 年の第 7 回イタリアセミナーから訪問地に行っているトスカーナ州アレツォ県ヴァルディキアーナ地区の地域精神保健活動を報告させていただきましたが、ダルコ先生のこの地区での活動に対する思い入れの強さを伝えきれなかが不安です。ヴァルディキアーナ地区の活動の基礎を確立したダルコ先生と、現在の先進的な活動に育て上げたボルゲージ先生。このお二人がいて、現在の活動があることが大変よく理解できます。そして我々は、現在直接この先生方からお話が伺えていることを、大変うれしく感じております。今年も 11 月には第 12 回イタリアセミナーツアーを企画しておりますので、多くの皆様に最新のイタリア地域精神保健活動に触れていただきたいと思います。ご参加をお待ちしております。

< 修道院時代の教会部分は現在も教会として使用されております。>

教会の内部





## \* 事務局からのお知らせ

### (1)リフレッシュセミナー2016「リフレッシュ交流会 in 御荘」参加者募集のお知らせ

先月号でご案内さしあげましたとおり、今回のリフレッシュセミナーはセミナー形式をとらず、お集まりいただいた皆様相互の情報交換や交流を通して、福祉の領域にかかわる多様な方々がフラットな関係で親交を深めていただくことを願って「リフレッシュ交流会」としました。6月3日(金)まで参加申し込みを受け付けています。

開催日時 平成28年6月18日(土)13:00～、19日(日)は自由行動となります。

会場 スtockハウス平山寮 (愛媛県南宇和郡愛南町御荘平山7)

参加費 7000円(内訳:懇親会費¥4000、参加費¥1000、協会連絡費¥2000)

※宿泊・交通機関は各自で調整願います。

※詳細は協会ホームページ上の「案内書」「申込書」をご確認ください。

### (2)カナダ・トロント ACT セミナーツアー2016 参加者募集のお知らせ

先月号でご案内差し上げましたとおり、重症慢性精神障がい者が住み慣れた地域で暮らしていけるように、多職種の専門家で構成するチームが、地域において24時間365日、時間と場所を問わず広範囲のサービスを提供するケアマネジメントの実践「ACT」の研修に参加してみませんか。

現在参加者募集中です。

期間 平成28年9月18日(日)～24日(土) 7日間

参加費 330,000円(航空運賃・宿泊費・研修・通訳費含む)

シングルルーム希望の追加料金(¥30,000)

燃油サーチャージ・空港諸税は別途お支払い下さい。

募集人員 8名程度

締切り 8月10日(水):募集人員に達した場合は締切らせていただきます。

※詳細は協会ホームページ上の「案内書」「申込書」をご確認ください。

**※追記** 本号(5月号)よりWeb発行・ホームページ掲載に発行形態を変更させていただきました。紙面発行が終了したことで、ご愛読いただいていた皆様には多少のご不便をお掛けすることになりますが、環境の変化をご理解いただきパソコンやタブレット端末にて、今まで同様ご愛読いただけますよう、心よりお願い申し上げます。



## —編集後記—

◎多機能型診療所の実践から政策提言の動きが広がっています。太田先生の記事とても興味深く読ませていただきました。大切な大切な情報提供本当にありがとうございます。

◎御荘、リフレッシュ交流会とさせていただきます。天気がよければいいなと思いつつ、皆さんとの再会や、新しい出会いを楽しみにしています。

◎本震当日とその後2回南阿蘇へ。一昨日は熊本市内～益城町へ足を延ばしてみました。東海大学農学部に通い被災した長女やその仲間たち、大家さんを通じて震災に少しずつ関わっています。また、仙台 CLC や宝塚、淡路社協さんが中核となって熊本県からの依頼で支援ネットワークが立ち上がり、2名の専門職が支援活動に参加させていただきました。

これからの道のりのイメージが描けずにいますが、ひとつひとつ丁寧に取り組み、少しでもお役に立てたら…と考えています。また、皆さんにも声をかけさせてください。(長野)

〒115-0045 北区赤羽2-45-8ファーストビス赤羽205 TEL/FAX03-5939-9603